

**研究機関名：下関市立市民病院**

**研究課題名：**

全入院患者における SOFA（連続的臓器不全評価）差分スコア DX（デジタル変革）による救命等の効果：導入前後 2 年の前向き研究

**研究期間：**西暦 2023 年 1 月 1 日 ～ 2024 年 12 月 31 日

**対象材料：**

- 病理材料（対象臓器名： ）  
 生検材料（対象臓器名： ）  
 血液材料  
 遊離細胞  
 その他（電子カルテ資料 ）

**上記材料の採取期間：** 西暦 2024 年 1 月 ～ 2025 年 1 月

**意義：**

医学上の貢献として、類似の試みは、集中治療部（HCU）のモニター機器データに特化したソフトウェアがあるが、今回の自動計算は類例に乏しいので、敗血症患者の救命に尽くしうる。

**目的：**

国際的な敗血症の定義は 2016 年に改められ、Sepsis-3 となり、そのガイドラインにおいて、定義を満たす症例では、①培養検体を取り、時間を争い広域抗菌薬を投与（早期ゴール目標治療）し、培養結果で適正化（Stewardship）することにより救命率が高まるとされる。その定義は、平時より上昇した SOFA スコアが 2 点以上の場合とされた。

その後、日本の保険診療において当院も該当する②DPC（診断処置複合診療報酬）では、敗血症例に加点がありうる一方、診断日と翌日の SOFA スコアを国に提出する指示がある。しかし、③その計算は人手によりなされ、医師や事務職の時間的負担となっていた。

今回、自動計算 DX 導入により①の介入が早まり、②の医療経済効果も見込まれ、③人的資源の効率化が期待される。そこで前向き研究として①、②および③について導入前後を比較する。

**方法：**

対象は 2023 年 1 月ー2024 年 12 月までの全入院患者とし、方法は本法導入前 1 年と後 1 年を比較する。この理由は、敗血症が季節変動として酷暑期と厳寒期に増加しうるからである。

**個人情報の取り扱い：**

匿名として解析され、公表の場合も匿名とされる。

**問い合わせ・苦情等の窓口：**

〒750-8520

山口県下関市向洋町一丁目13番1号

下関市立市民病院 呼吸器外科 副院長 吉田 順一

TEL 083-231-4111 FAX 083-224-3838